

## 術後せん妄状態に陥った患者に対する看護師の対応についての実態調査

西病棟 4階 ○薬師奈津子 荒井千芽 久世恭子 戸田敬子

key word : 術後、せん妄、看護師、対応

### はじめに

術後せん妄は、日常生活行動の自立と安全な入院生活、基礎疾患の治療及び生命予後に重大な影響を及ぼす。そのため、手術前に術後せん妄を起こしやすい患者を予測し、その予防を行うことは重要<sup>1)</sup>であるといわれている。しかし、なかには緊急手術が必要となるケースもあり、せん妄予防を行うことが困難なこともある。その場合、患者は突然の環境の変化や身体状況の変化によりせん妄状態を発症しやすい。近年手術患者が高齢化しており、金井らは急激な環境の変化は、老人にとっては不応を起こしやすい<sup>2)</sup>と述べている。

術後せん妄状態をやわらげるために、基礎疾患の治療、薬剤による鎮静や、環境整備などに加え、術直後から患者を24時間観察しケアする看護師が、その症状を早期に発見し、対応することは重要である。普段、術後回復室において術後患者の看護に携わる中で、看護師による対応がせん妄に何らかの影響を与えることはないかと考えた。

過去の文献では、術前のせん妄予防に焦点をあてた研究や、せん妄の発症因子に関する研究は多くみられたが、せん妄状態に陥った場合の看護援助に関する研究は少なかった。そこで今回は、術後せん妄状態と看護師の対応に焦点を当て、調査を行った。

### I. 研究目的

術後せん妄状態に陥った患者（以下せん妄患者とする）に対する看護師の対応の実態を調査し、看護師の対応とせん妄状態に関連性があるかを明らかにする。

### II. 研究方法

#### 1. 調査方法

参考文献を基に独自に作成した無記名の質問紙調査を実施した。対象者の経験から自分たちの関わり

方によって患者のせん妄が「おさまることが多い」「ややおさまることが多い」と答えたものをせん妄がおさまった群、「強くなることが多い」「変わらないことが多い」と答えたものをせん妄がおさまらなかった群とし、「表情」「声の高さ」「言葉」「タッチング」「視線」など各質問項目に対してクロス集計を行い、Pearsonの $\chi^2$ 乗検定、及びFisherの直接確立計算法を用いて有意差を求めた。統計・解析プログラムはSPSS 10.0J for Windowsを使用した。

#### 2. 調査期間

平成19年9月13日～平成19年9月17日

#### 3. 調査対象

A大学病院外科系病棟（ICU、術後回復室、消化器外科病棟、心臓血管外科病棟、呼吸器外科病棟）に勤務する看護師110名。但し直接患者をケアする機会が少ない看護師長は対象から除いた。

#### 4. 倫理的配慮

A大学医学倫理委員会看護専門委員会で承認を受けた調査用紙を用いて、対象者には、研究目的、個人情報保護、個人が特定されないことを書面にて説明し、アンケートが回収されたことで研究協力に同意を得たこととした。

#### 5. 「術後せん妄」の定義

本研究において術後せん妄とは術後2～3日のうちに急激に発症する精神症状であり、意識障害、認知の変化（記憶欠損、失見当識など）を伴うもの。これらは一過性に出現し1日のうちでも変化するが、その多くは短時間で消失する<sup>3)</sup>状態であると定義する。

### III. 研究結果

有効回答者数は80名（有効回答率72%）であった。看護師の平均経験年数は $9.9 \pm 8.4$ 年であった。

せん妄がおさまった群は20名（25%）、せん妄がおさまらなかった群は60名（75%）であった。（表1、図1）これらの群を質問項目別にみた結果、普段のせん妄患者への対応で「優しい表情を心がけて

いる」群は「厳しい表情、あるいは気にしていない」群に比べ、せん妄がおさまった割合が有意に高かった ( $p<0.01$ )。さらに、「声の高さを低めにしている」群は「高め、あるいは気にしていない」群に比べ、せん妄がおさまった割合が有意に高かった ( $p<0.01$ )。一方、他の質問項目については、「簡単、簡潔な言葉を選ぶ」「話し方をゆっくり穏やかにする」「目線を低くする」「タッチングを取り入れる」「自分が看護師であることを話して接する」「患者の言葉を否定しない」などの群と、せん妄がおさまった群との間で有意な差はみられなかった。(表2)

自由回答では、普段せん妄患者への対応に関して留意していることとして、「患者がどうしたいのかを理解することが大切だと思う」「患者の欲求を満たしてあげる」「現実を伝える」などの意見がみられた。また、「せん妄状態にある患者の言葉は否定しない」「ゆっくり穏やかに話す」「目線を合わせる」などの、今回のアンケートの質問項目に含まれていた内容も意見として述べられていた。(表3)

#### IV. 考察

調査結果より、表情や声の高さが、せん妄患者に何らかの影響を与える可能性が高い。長谷川は、せん妄患者に対し患者の混乱を助長しないような対応方法が必要である<sup>4)</sup>と述べている。看護師の表情や声の高さを工夫することで、せん妄患者をより混乱に陥らせないこと、症状を少しでもやわらげることが可能であると考えられる。せん妄患者への看護援助として、せん妄の発症要因である「ストレス因子」にうまく対処することができず不適応状態にある人に対して、その人がどのようなストレス因子にさらされているのかを探り、ストレス因子を軽減したり、うまく対処できるよう援助することが重要である<sup>5)</sup>と長谷川は述べている。せん妄患者に対し穏やかな表情を向けることや落ち着いた口調で話すことで、ストレス状態にある患者はより強いストレスを感じることがなくなる、あるいは落ち着きを取り戻しやすくなるのではないかと考えられる。また、自由回答では、5名の人々が「患者がどうしたいのかを理解し、できる限り患者の欲求を満たしてあげる」という留意点を答えていた。患者をまず理解しようとするのが、患者のストレス因子を軽減するために最も重要なせん妄の対処法の一つであると考えられる。

看護師の職務として、患者の安全を守ることが第一に求められるが、須藤は、せん妄患者の事故防止に躍起になるあまり、威圧的な態度になり患者の言

動を否定することのないように対応することが必要である<sup>6)</sup>と述べている。解析の結果、せん妄がおさまった群との関連性はみられなかったが、自由回答では1割の人が「せん妄患者の言葉は否定しない」ことを留意点として答えていた。妄想や幻覚は患者にとっては現実のものであるため、否定しても患者は受け入れないばかりでなく、強く拒否すると、看護者の言葉の強さに反応して、かえって興奮する場合もある<sup>7)</sup>ため、言動には注意が必要である。患者の言動を否定することは、混乱状態にある患者に対しよりいっそう精神的苦痛を与えることになり得ると考えられる。

せん妄患者に対して穏やかに接すること、また目線の高さを合わせることに留意している人の割合が高かった。中には自由回答でも個人的な留意点として述べられており、表情や声と同様、せん妄患者に親近感や安心感、落ち着きを与える目的で、取り入れられていると考えられる。

タッチングをせん妄患者に取り入れると答えた人が6割以上であった。看護師が行うタッチは、患者の状態を把握する、患者の不安をおさめて心を落ちつける、安らぎを与える、痛みを和らげる、緊張をとるなどさまざまな点で有効である<sup>8)</sup>といわれているが、せん妄患者にとっては、看護師を認知できない場合があり、せん妄の状態に応じて患者を刺激することのないよう配慮して行う必要があると考えられる。

太田は、看護師が患者に会うたびに自分の名前を名乗る<sup>9)</sup>ことをせん妄発症時のケアとして挙げているが、今回の調査では「自分が看護師であることを話して接する」と答えた人の割合が低かった。看護師であることを話しても患者に理解されなかったり、受け入れられなかったりする場合があるが、せん妄の状況をみながら看護師であることを話し、大丈夫であることを伝え安心できるよう対応することが必要である。

今回の調査では、看護師の対応方法で、患者の術後せん妄状態は変わらない、あるいは強くなったと答えた人の割合が75%と高かった。このことから看護師の対応のみでは十分にせん妄状態をやわらげることが困難であることが示唆された。しかし、表情や声の高さを工夫するなど、患者に安心感を与える対応を心がけることで、せん妄状態が強まるのをおさえる、あるいはやわらげることができるのではないかと考えられる。また、自由回答では患者を刺激しないよう配慮する意見があり、それぞれ独自でせん妄をやわらげるための対応方法を考え、行ってい

ることが分かった。看護師によってせん妄患者への対応や留意点が一人一人異なることが分かり、患者が等しくケアを受けられるために、せん妄患者への対応を統一し、よりよいケアを普及していく必要があると考えられる。今後は今回の調査結果を踏まえ、スタッフ間でのせん妄についての知識を共有し、有効性のある統一されたケアを行っていくことが課題である。

本研究の限界として、調査が対象者の主観や記憶に委ねられるため明確な回答が得られにくいことがある。また、看護師の対応について、1つの要因ではなく、様々な要因が複合的に合わさることで患者のせん妄をやわらげるのではないとも考えられる。今後は、看護師の対応によって、せん妄患者が、実際にどの程度改善がみられるか客観的に判断できるような方法を改めて調査を行いたい。

## V. 結論

1. 術後せん妄状態にある患者に対し、「声を低めに行っている」群は「高め、あるいは気にしていない」群に比べ、せん妄がおさまると答えた割合が有意に高かった。
2. 術後せん妄状態にある患者に対し、「穏やかな表情で接する」群は「厳しい表情、あるいは気にしていない」群に比べせん妄がおさまると答えた割合が有意に高かった。

## 引用文献

- 1) 多田久美子ほか：術後せん妄を惹起する術前要因, 第32回 成人看護 I, p29-31, 2001
- 2) 金井悦子・森美智子・堀川直史：精神不穏発症に関する看護視点からの基礎的研究, 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, p13-19, 1998
- 3) 田川由紀ほか：術後せん妄発症時の患者家族の精神的变化, 第31回日本看護学会論文集(成人看護 I),

p212, 2000

- 4) 長谷川真澄：せん妄患者への看護援助の方法, Expert Nurse Vol.17, No.15, December, p46-4, 2001
- 5) 一瀬邦弘, 長谷川真澄ほか：せん妄すぐに見つけて！すぐに対応！ 照林社, p58-59, 2002
- 6) 須藤加代：手術を受ける高齢者の看護のポイント—術当日・術後の看護—, 看護技術'99, vol.45 No.16, p1730-1734, 1999
- 7) 坂田三允, 小林美子：心を病む人の看護, 中央法規, p40-43, 1995
- 8) 藤野彰子：看護とタッチに関する研究動向、看護研究, 31(5), p9-18, 1998
- 9) 太田喜久子ほか：せん妄様状態にある高齢者への看護ケアモデル—一般病院における高齢者ケアへの探求—, 看護技術, 44(11), p84, 1998

## 参考文献

- 1) 南川雅子ほか：せん妄患者のアセスメントとケア, Expert Nurse Vol.16, No.7, June, 2000
- 2) 野嶋佐由美・南裕子：ナースによる心のケアハンドブック—現象の理解と介入方法—, 照林社, 2000
- 3) 太田喜久子ほか：せん妄様状態にある高齢者への看護ケアモデル—一般病院における高齢者ケアへの探求—, 看護技術, 44(11), 84, 1998

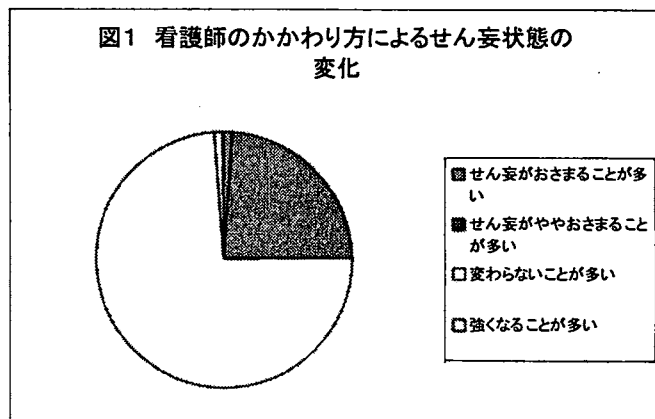


表1 看護師のかかわり方によるせん妄状態の変化

	人数	%
せん妄がおさまることが多い	1	1.2
せん妄がややおさまることが多い	19	23.7
変わらないことが多い	59	73.7
強くなることが多い	1	1.2
<b>合計</b>	<b>80</b>	<b>100</b>

表2 具体的な看護師のかかわり方とせん妄状態の変化の関係

n=80

	せん妄が おさまった		せん妄が おさまらなかった		
	人数	%	人数	%	
優しい表情	12	60	13	21	***
厳しい、あるいは気にしない	8	40	47	79	
低めの声	8	40	7	12	***
高め、あるいは気にしない	12	60	53	88	
簡単な言葉を使う	17	85	42	70	
言葉は気にしていない	3	15	18	30	
ゆっくり穏やかに話す	16	80	41	68	
はきはきとした口調	4	20	19	32	
目線の高さを合わせる	18	90	46	77	
目線の高さを気にしない	2	10	14	23	
タッチングを取り入れる	12	60	38	63	
タッチングを取り入れない	8	40	22	37	
看護師であることを話して接する	5	25	7	12	
看護師であることを話さず接する	15	75	53	88	
患者の言葉を否定しない	19	95	52	87	
患者の言葉を否定する	1	5	8	13	

\*\*\*:p&lt;0.001

表3 普段せん妄患者への対応に関して留意していること(自由回答)

- ・患者がどうしたいのかを理解し、できる限り患者の欲求を満たしてあげる(5人)
- ・早めの対応(薬剤使用)、時間を待つ(3人)
- ・家族の協力をお願いする(2人)
- ・現実を伝える。(日時、場所など)(2人)
- ・必要以上に近づかない。相手が落ち着いてきたらやんわりふれる(2人)
- ・普段の日常生活の状況を形作っていけるよう、身の回りを整えていき、会話をする(1人)
- ・生まれたところとか、仕事のこと、昔のことなどを聞くようにしている(1人)

<質問内容に含まれていた回答など>

- ・否定せずに訴えを聞く(8人)
- ・穏やかな接し方していると興奮状態が落ち着くことがある(6人)
- ・目線を合わせて、最初は行動、言動を見守ってから話しかける(2人)
- ・まず命が大切なので、ルート類は絶対管理する(2人)
- ・大きすぎない声で短い文章を心がける。相手の発した言葉を用いて気を引く(1人)
- ・できることを強調するようにし、禁止事項ばかりいわない、制止は最小限にする(1人)
- ・その他